

香川大学と私

教育・昭和56年3月卒 横山（西池）由美子

1. 「女の子や大学にいかんでええ」、香川大学と自分とのご縁を振り返るとき、父のその言葉が最初のキーワードでした。その時母が父の兄に頼んで高校生の私が頑張っている勉強が無駄にならないように動いてくれ大学受験を許してもらえて、なんとか私の香川大学への扉が開かれたのでした。
2. 「香川大学とのご縁は本当に奇跡的？大学に不合格なら、大学はあきらめて仕事をする」高校3年の時、国家公務員の試験に合格していた私は、大学が不合格なら室戸少年自然の家など国の施設で働く道もええな、とか、高知大学に合格して本当は高知大学にいきたかったけれど、香川で先生になるならやっぱり香川大学でしようという高校の先生のアドバイスで香川大学に進学したのでした。また、この時、絶対に下宿したいと思い、高松に下宿して、当時仕送りは「5万円が相場のところ、2万円の仕送りだけ」で、後は43000円ほど、家庭教師のアルバイトをして苦学生として4年間の大学生活を送ることになったのでした。月2万でよく4年間下宿したなあ、私。
3. 「香川大学での経験があればこそ・・・、香川大学に出合えて、本当によかった」入学してから卒業までの4年間は、「小学生の時に引っ越していった大親友Mちゃんとの6年目にしてかなった同居生活」「体育研究室での石川先生をはじめとする先生方、3年岡本さんをはじめ諸先輩方、後輩達とのかけがえのない出会い、13人の同級生との出会い」、そしてなんといっても、香川大学でのかけがえのない濃い体験、「大学プールから続く津田の海での水泳合宿、4キロの遠泳、冬は大山でのスキー合宿、植村先生のご指導のもとバスケットボール部での日々の練習、合宿、遠征、そしてIさん、Zさん、Iちゃんに連れていってもらった全日インカレ代々木体育館」そのどれもが、その後の教員としての自分を支え、何度かあった教員生活の危機の時にも私を救ってくれました。また、「最初は泳げなかった子も含めて44人の平均泳力98.8メートル、大縄跳び10人一斉に500回達成！6年算数県版¹テスト45人全員100点」、クラス全員逆上がり成功」などは、そのどれもが最初は困難に思えたことをものすごい努力でなしとげ、こども達と共に深い感動につつまれて、何回も涙したでき事でした。他にも子ども達との強烈な思い出の土台になったのが、大学での岸先生とのダンス発表会、これはその後「市や県のダンス発表会への出場」や、「30人31脚での4年生タイム50メートル11.8秒や、6年生10.21秒準優勝」など、クラスみんなで心を1つにして何かを成し遂げた時の心震える経験につながりました。このように、私の一生はまさに香川大学との出会いからのギフトであったと今更のように思えるのです。